

## 動物愛護週間イベント

何処までも何処までも！続く青空のもと「さいたま市動物愛護週間イベント」が開かれました。私達NPO法人アニマル・サポート・メイトとNPO法人ペット里親会とアニマル・エイドと別所沼地域の猫を守る会でイベントに参画しました「ワン・ニャンお困りごと相談室」とテントに看板を掲げました。残暑の中でしたがイベント会場の「さいたま市ふれあい動物センター」に約750名の方々が来訪してくださいました。半分ぐらいの方々が家族の犬を連れてと大変！有意義なイベントの一日でした。「ワン・ニャンお困りごと相談室」はスタンプラリーも兼ねていましたのでクイズに答える子供さんたちに別所沼地域の猫を守る会副会長の土屋さんが「教えちゃダメよ・・し〜」と。

相談室は、お困りごとの相談よりも「我が家のワ



ン・ニャンのご自慢」が多かったです。夕方の少し秋めいてきた風にお互い「動物愛護週間だけでなく・・何時も何時も動物の愛護を考えて欲しいわね〜」と、この言葉の様に特別な週間を設けなくとも良い「人と動物の平和な共生」が早く来ることを祈らずにはいられませんでした。

## 栄和小学校PTAと栄和公民館協賛講演

11月の秋の深まりを紅葉の色とりどりの梢が見せてくれていました。三十数名の親御さんと栄和公民館の担当者として「さいたま市動物ふれあいセンター」の協力でセンターの大会議室を講演会場と大変うれしいコラボレーション。

「ともに 生きる」と題して小学生の親御さんたちに一時間半の講演。

現在の悲惨な事件の被害者も加害者も低年齢化したこの現状で、一番混乱し翻弄されているのが子供さん達。大人として現実の生活環境が「子供の子供らしさ」を奪い赤ちゃんのころから全てを消費の対象にし、これもあれもお金が全てになり更に、子供さん達が駆け巡る場所も時間も無くして「子供に子供らしさ」を求めている「昔の自分の子供のころは・・良かった」と、責任転嫁で無責任。今、急い

で環境変化は困難であるし時間も掛かる。ここでも当会の基軸「ともに 生きる」ために足元から日々の生活からささやかに出来る事をお話しました。子供さん達に密着した動物との生活で弱者を思いやる気持ちや譲る気持ちが素直に持つ事が出来る、子供さんの食事の前に犬や猫に餌を与える

「ちょっと待ってね貴方のご飯の前に、ポチの餌をしてね」と、待つ事で譲る気持ちが自然に身につくことも有るのです。朝、登校前に必ず一つ子供さんを誉めてください。例えばランドセルの背負い方が良いでも、靴下が似合うとか何気ない事で「あらっ・・今朝の〇〇ちゃんの髪の毛が光ってる・・良いわね〜」ちょっとした事でその日のスタートが心地よいものになります。子供と動物と同じではないけれど同じように目をかけて育み互いの成長を見守る大切さをお話しました。会場に幼いお嬢さんが母親の膝の上でとても楽しそうにおとなしくお座りをしていました。子供のくるくる回る目と動物のつ

ぶらな瞳の輝きは、素晴らしい輝きを感じますね。

講演終了時に皆さんから頂いた花束はセンターで最後を迎えた動物達にお供えしてきました、皆さんのお気持ちとともに感謝。



広川副センター長と皆さんで

